



岸本周平  
Kishimoto Shuhei  
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>  
<http://blog.goo.ne.jp/shu0712>

# どぶ板活動と 政策力

和歌山県橋本市の山奥に「きのくに子どもの村学園 (<http://www.kinokuni.ac.jp>)」があります。全国的にも有名な自由な教育を実施している学校で、教育学者の堀真一郎さんが15年前に苦心の末、学校法人として設立されました。定員は小学校90人、中学校45人、高校45人のこじんまりとした私立学校です。クラスは小学校だと、「工務店」、「きのくにファーム」、「おもしろ料理店」、「劇団きのくに」の4つで、1年から6年までの生徒と一緒に学びます。学ぶといっても、文部省から配られる教科書は一切使いません。「ことば」と「かず」の基礎学習以外はすべてプロジェクトが授業時間です。



きのくに子どもの村学園にて

例えば、「工務店」なら、家を一軒小学生だけで建ててしまいます。完成までのプロセスで、数学や理科や社会などを自然に学ぶ仕掛けです。調査の結果、学習指導要領の中身の77%をカバーしていたことがわかりました。例えば、基礎の部分は専門家がきちんと施工していますが、担任でもある堀先生の指導で設計も含めて子どもたちがやります。柱の添え木の長さを計算しなければいけなくなり、はじめて子どもたちは「直角三角形の斜辺の長さ」を計算する方法を考え出すことになります。定理や公式ではなく、必要に迫られて、考えますから、しっか

りと身に付くのです。堀先生も、昔は定理として覚えただけの生徒でした。今回一緒に家を建てる過程で理解が深まったそうです。

小学生でも、1年の内、1カ月から2カ月は英国にある「分校」で英語漬けの生活を送ります。こんなユニークな教育の結果、子どもたちが「自分が何をやりたいのか」真剣に考えるおかげで、生徒は大学進学か就職かを自主的に決定します。寮生活が基本ですが、約4分の1の子どもは通学です。子どもたちの目の輝きがすごい。中学校では、「道具製作所」クラスが自動車整備をして、保護者や学校の車の車検を引き受けています。「動植物研究所」クラスは「ピオトップ」の全国コンクールで賞をゲット。

プロジェクトを進める上で、博物館やいろいろな現場で調べ物をするために、旅行に行きます。小学生のクラスでも、年に数回行くそうです。付き添いの先生の費用以外は自分たちでお金をつくります。足りないときは学校から借金して、バザーや自分たちの旅行記などを保護者に売って稼いでから返します。修学旅行も、学校から例えば3万円以内という予算制約を与えられて、自分たちで企画します。

アメリカの小学校で、私の娘のクラスでも、遠足の費用は自分たちでバザーをして稼いでから行きました。子どもの頃から独立心と生活力を鍛えていくという教育の哲学が重要なのだと思います。教育再生会議のように、「土曜日に授業をするかどうか」というような枝葉末節のことばかり議論するのはそろそろ止めませんか。

今日の見学のきっかけは、先日橋本市議会議員選挙で当選した瀧洋一さんの二人のお子さんがこの学校に通っていたからです。民主党和歌山の仲間たちと一緒に、このツアーに参加しました。日常のどぶ板選挙活動に加え、政策能力を高めるための活動も重要です。「百聞は一見に如かず」です。少し賢くなりました。

